

100%誰かの役に立つ

3月8日に、1年生が職業講話会を行いました。ラジオ番組や音楽イベントなど様々なことを手がけて見える、フリーディレクターの榎野孔明さんの「ラジオって、どんなものだろう」「ディレクターって、どんな仕事だろう」というお話しを中心に、「行動力→やってみる、飛び込んでみる」「アイデア→今できなくても考える」つまり、「運は自分の力ではどうにもならないことがあるけれど、行動力とアイデアは、自分でできること」だということを教えていただきました。そして、「どうしてもアイデアが出せないという人もいるかもしれない。そのような人は、周りの人が喜ぶ事をしてほしい。いい人と関わった人やいい人の周りにはいる人たちは、みんな笑顔になっていると思う」とおっしゃって見えました。

確かに、テレビのドキュメンタリー番組や報道番組で「なぜ、この仕事を選んだのですか」という質問をよく耳にします。そう尋ねられた方々は、「仕事をやり遂げた先に、人の笑顔が見える」とか「周りの人たちの笑顔が見たい」と応えていることが多いように感じます。

「卒業後の進路とか将来の夢は？」と聞かれても、まだ漠然とした「あこがれ」はあるものの、明確に決められている子どもたちは多くないのかもしれませんが。しかし、榎野さんの話から考えさせられたことは、私たちは、どうしても失敗したときの後悔が怖くて一歩が踏み出せない事が多いけれども、後悔しないために一歩を踏み出すんだと考えることが大切であるということです。そして、失敗しても、その失敗は必ず未来に繋がる一歩になるという言葉も、心に残りました。



【榎野さんの職業講話を聞く1年生】

中学校を卒業したら、一人一人違う進路を歩んでいく祖中生が、働く意義を考え迷ったときには、今回の職業講話の話思い出し、「働くことは楽ではないけれども、100%誰かの役に立っている」という自信をもってほしいと思います。

自分らしく生きる

2年生が、3月10日にNPO法人ルピナスを設立した助産師・愛智律子先生から「いのちと性を考える」をテーマに授業を受けました。性の在り方は人の数だけあり、「からだの性」「こころの性」「恋愛の性」「表現する性」をさらに細かく幾通りも考えられるそうです。愛智先生は、優しい口調で、「すてきな恋をしてほしい」と話されていました。そのことは対等な関係の中で成り立ち、「つきあい方は人それぞれ」「よく考えて自分で決める」「ごめんなさいと断る勇気」「ごめんなさいと受け入れる勇気」の大切さを教えてくださいました。

子どもたちを取り巻く情報は、簡単に手に入り、自分の考えに近い情報だけを得ようとするために、自然と情報にフィルターをかけてしまいがちです。しかし、得た情報だけに流されず、正しい知識で、自分の生き方を決定してほしいと思います。

今回の授業のはじめに、赤ちゃんの産声を聞かせてくださいました。はじめて自分の力で呼吸をし始めた瞬間。それは、自分らしく生きる人生の始まりだと感じました。



【愛智先生の授業】